

**「ITER (International Thermonuclear Experimental Reactor: 国際熱核融合実験炉)に  
JASTEC の貢献を記念するプラークを謹呈」**

JASTEC は、完成が近づく ITER(南フランス)本部に当社の貢献を記念するプラーク(ステンレスプレート)を送付しました。ITERの日本国内機関である量子科学技術研究開発機構(量研機構)の薦めに応えたものです。

JASTEC は、ITERプロジェクトにおいて、プラズマ浮上保持用の超電導ケーブルとプラズマ加熱用ジャイロトロン用の超電導コイルを開発し納品しました。

- ・TF コイル用 Nb<sub>3</sub>Sn スtrand 約 45 トン

- ・CS コイル用 Nb<sub>3</sub>Sn スtrand 約 60 トン

いずれも、素線約 900 本を束ねたケーブルとして量研機構に納品しました。

- ・プラズマ加熱ジャイロトロン用超電導マグネット 8 台

炉内のプラズマを約1メガワットの高出力マイクロ波加熱するジャイロトロン用超電導マグネット8台を量研機構に納品しました。

ITER (International Thermonuclear Experimental Reactor: 国際熱核融合実験炉)は他に類をみない世界7極による国際協力事業(日本、欧州連合、米国、ロシア、中国、韓国、インド)です。ITER 本部は、機器の製作、建設に携わった企業を称え、感謝の意を示す意味で日本から 25 社、ITER 機構 50 社、欧州 50 社、他の参加極からそれぞれ 25 社(合計 250 社)のプラークを南フランスの ITER 本部5階展望室に掲示する予定です。送付したプラークを写真に示します。JASTEC のロゴに Nb<sub>3</sub>Sn 素線のビレット断面と 7T240 ジャイロトロン用マグネットを添えたデザインです。

核融合は、2つの原子核が衝突し融合する際に膨大なエネルギーを発生する反応で、太陽で常に起こっている現象です。原料は、海水から得る重水素と三重水素であり、CO<sub>2</sub>や高レベル放射性廃棄物も発生しないことから究極のエネルギー源「地上の太陽」として期待されています。

JASTEC はこのような国際協力事業に当社の技術を提供できたことを誇りに思い、さらに価値ある製品をお届けできるよう努力して参ります。